# 繪入一夜船 一

京乙5
369

別圖

5-3
4-3

国立国会図書館　タイトル『一夜船 5巻』 請求記号 寄別5-3-4-3

ガラス使用

京乙
5
369

国立国会図書館　タイトル『一夜船 5巻』 請求記号 寄別5-3-4-3

ガラス使用

# 一夜船巻第二

## 目録

㊀ 恋かけ馬の乗廉落

㊁ 何をか須磨の海女

㊂ 月夜よみする坊なども

老いの友なる腰病并
物もさすがへ伯父の事

国立国会図書館　タイトル『一夜船 5巻』 請求記号 寄別5-3-4-3

ガラス使用

㊃ 人もなれどもあしき材　嫌悪よく消す蛍柳の雪
㊄ 人を殺して妻子の命　ほうそうある念仏の夢
　　数を噛むとも法師の徳　悔を捨ろの枝もあらばこそ
　　梅



一夜船巻之第三

㊀ 楽うけるみの修業時　ひと今里別荘とつゐ酒人お目の出給ふ時
よき酒さかなの用意すでに　一ぱい。女房と。一ぱい一ぱの別辛をひらいた吉左右を告
べき別辛ハ楽うける。母ハ家業の用をせよを。宮山詣とも
たき祝ひまするも。母をるふてひとり世をよそふとよめる狂歌の
てるけしきそ。母ハるして自由交門おもとも和らく。
業をとゝしまどと弥生ハ
玉へひとり旅の給金やとらひ。を辛糸ながら。の
貸角をこ平均いてゝ。ハるの妙薬とうけるのれだ

をとゝやづさうと。作すでにあきて
見ひらくれば。母迷惑か。脉をさぐらず。正気つきて判
事大悦これよるとで。医にいたるまでに快気
けらまし。脈所もとべさやうの
さいとある事ぞうのべひ方よく家業も出精の通り
しうへば洗足の見ともに石仏開眼
などといへばさろさいうなれば
仮令中たづひや事これのち
わまべそともに同名いさまし
つよ。判事おりれ仕ぐちうべ出縁とわりだうねてれ
ゆかうべし。おもく兵令の出来ればとれば。自
然形別多これうともわりべ然合乃如下へ新発



よお医所。今宵判事のこゝろをとの方へおうつされ
物名同名判事とやとこの病人へおうつり母そひそび
依頼今より引越やうも承よやうみ
親さうけのうべいなどゝ文字よ
まれくぶ仮もそれ仕ぶさよ
ぶし生ま肥お毛田の地下発里而十卯とやと着親
百家仮へ病分よおうりおして脈をこり。十九日の
家紀へ引越養生仕うらうおう
仮よ。名事書く助ことすべ家仮と命死に海のうへや
くと討ま書く今へ事紀を立退も清ふうとの
ふ。京して石仏いい中間ぶりへ着さうぬ多へ
葉幼稚りて母がうひそしむく月日仏送う。

十文字より通る本当まで親の
かたきをねらひよあおに
出る考岡中山おもて関より西いもろびくしの果まで
もたづねありきめぐりあはざる不運のうへ三年の
間お菜そのうへ乞食乞つゝをうたもちうたる中間男又病死仕り
め今は命を国あてよ歌をたづねぬさ
なくて母親を失ひさら迷惑し。扨れそなのきう事
の病死と。それのいのちうち命。自害をせうべきたねし
なまこも。筆くうちの形うりこ
よ人ようけおり。をしをなもちに又さまひかひさびし
八国より来八月九出の浜をうらうら。少七ケ浜の波濱をこころ。
雪をもとけおもをうづらてありたまひさびしさうあり。事こ明が
前を立又よ多向方一面ねのかりと。涙をこぼして悔恨の

物知八判平ら親判平ら立つがりのの
うちぐ八仇とかくりてもの。れ会かいて武士よりかぶ
ござ。逃付れやらをうげらをべし。やうの一大事をうけ給
つうへ教かぐそこも与力こまうり
をも紙あくべ一働さ仕んと。性かぐ中関村よて別く
よ宿をれけうが。判平ぶくらひぐすに。ゆさくく親
をうさんとねらふ敵を。実外しおぐく。名乗うけて取
つうちふをべさうされた今日毋の命をたをけらもたる事
恐あもた。服おの墓をもぐぐよ仇うう。又討ざる間八父の
命あやし一生の業香とうちら
し。池傍よて俄中紙を仮り。服よ奥の髪を入て持よ
ひくべ。親判平つぐ教あくみう

国立国会図書館　タイトル『一夜船 5巻』 請求記号 寄別5-3-4-3
ガラス使用

より親の仇までぞと。葛籠の蓋を弾て釈
判をつゞまき葉の中納言巴今青八升ある書中。
月まぎ生く百十両ゲ旅宿よもりけ夜更百十両こゝ著
こゝ小河の足屈けり。名女書今といふ者対決を
でさう鼻教よ決りていや舟。百十両ちやく実つけ。
そて今自乙伸そ不覚ゞ拠でうせーを石よ耳ゆり
てかさ実つけ。くり討よとべさて先までさうけん討
をうたるを武士のかくしく施お。一石刀討合しに判事が
目新そーてて刀ハかくれなく町の者を桃灯をおせといふ事よ。
やも喧覚よ粗藩をのよ須松をおしなる
を。百十両売りけ人をさぐだうず。称て役人在

へくりあ新一親のくさ
来の申事を達もるよう
をえんぐれつしてぎ
わふーと必ゲよりひ
わまりと中よ。小秋中な
ゆる先一つ。り文面この判事あて。そりうふちけ
れ程の取存わで国行行乃不此嫌なる事先二つ。その
うへ十両より六年山方旅宿をひありさへられざるか
さが。さよい一秋の旅宿をりてあさう逆ーせよ
たづねさる事不害乃三つり。父の讎よハ倶よ天を
ってぐる大事ぬさよはぎりしさものを討ハ筆
ゆし。竟角趣着よ捨りしうへ縄をりけて吟味をへ

国立国会図書館　タイトル『一夜船 5巻』 請求記号 寄別5-3-4-3

ガラス使用

こひしめけい侍ふ縄をうけるほう法わりや親うてうそれのちで
も命を対決奥者とうふ色つきをぞそれがうろ程色うん
たる判事ゐしをぞをごめにせーをゆしてふそこれふ検
みわるべーぞ細ふゆるよゆうぐけめらさよいう矢八儀合を
よいうさあくさてをつまりを歌うち。うまこまを
うなまこまこ町人門をうこめ。ゐりをこびめて耳をかこびけ
なりぱうへいらんどてをうや意明一句程今日ちゆかりうう
判事なるが。そ方のろろを訴くしねう歌名な事し助。
今八俄名実名までありなて。とろそうそ掛をが親ゐり。ちう
まべうりうちをして。親ふ安堵さをうくなりふうろさ
しいを方が教をつけい称らへの者ゐり同じ実なた。今
日母が命をたをけいまたろ恐ふそれ

が一立て助よゆのてうまべ親の名代を方ふ
を日比のいさざをりを夜じさをて付八だがひよ親への一ろ八
うろいふものゐり。ぬるさうものて刀れ月打をめさ。親たの
そろ地をろんし面作を俄せ。ぬうちうろ名ゐりてこう方ふ
な命をげをんとれり命ふおもりよ武士ゐをはの
さにもり。某が命を安下ふなへいうをけるさ仕形ふ
くなけゐさうへ我ろりうちふあでさわゆこ
との勝負と切ろれ八町人ふ逃ちりね。二打三打うろひ。
しが百ナ句程句ふなりぐ。溝石よつまげさけ
を。判事ゐうこんて一方切ふしが添をりわりんぐ
どたをれゐう。判事さわ。ぐめさをとべ。ぶ残ぞを
わざりて務負せよと百ナ句をうれた次面へ判事毋



国立国会図書館　タイトル『一夜船 5巻』 請求記号 寄別5-3-4-3
ガラス使用

うけさうり。海がたなつよい親おやうさ。我わがよへはきの
かうさをなれをよ一命をとくそれ小笠原流の礼式
みの判事よさうり法けしおを百十両。これなの若ふあれ
者をへうさせ海ごさき判事小おひうさうを母おやまち
て又百十両をうそべけうびれまおそうや息絶ぬ判事を
浅きまかう取おりく一寸こうを。母ふうぐ
け。ひ世うてそかうさ味方さへかれ来ハ一生ご死生兄弟こ
も生れよと二人う死殻をうらうまあ。そうく善うものた
う名をめりうかう小袖をめでうれ死殻ご却おひ
ひ判事が服ざをうろうりにつきたて。うはきぬ
よくり。ひ次男判官ふけうまよハ称
うひうれを。三人う宮殿場よ来り立股うておを果け。義



理よくうさ民吉の命。乃至年数奥ごだれより

㊁ 釵をかうせ。孫女

武州川越乃役人へ召おを和国堂つ仕官を辞して。ぢうく
閑所せ。ひらぐ三越来よ。今て善川の宿場よ来すみ
よおくまてうき人乃僕をひ合をう取よ。そのかうひうう
一逆磔乃如。末のううひまて遣ひうまて歩こ。稽古
後つが前よこうりてれ自分で世よそのひ方乃。仏門を
頁ろう。乃家の門よそをたう形礼を裂うそおれて
ひ。稽古つもうくまもおうそうく乳をもの。今ひふまり
門を越てうさうし者なり。ろく席ん年いとひつう。今ふ
乃へり者うさうぬ。そもをひうへ女涙を流し余の
人へ我妻をおうれてちひうねばこだをうそすでうたり

ゐ。そもく人家よう病なうてゞ俯仕ろよりぐくもが
む若患をそをけ給られくぐさ煩さけるよおそれくお
ゐへていざそうしろをひけそれだおられげよ男をおそて
て屑ふかりめ。顧くけがらりまみさま髪和尚寺が勢ま
なゐいろゐろゞ川を覗こてゞ家のおろゐ。門
ゐれを剃まいび女うち発。家よのとろへ〳〵。急家庭路
勧してやゞて女の生前をくへ名おま始りを紙とろへめ。和
田左ろ奥さあるこ。又川そうけ重へ家ゐ代像ゐそれ
おれびゞて年空をうげかこけ。通よ迷ぐ〳〵我
りとうの家よ在ゐ者ゐしが。ろとこをかよそするう
たがい女おろたくうそ。主実の飛よ男を酒しがる着
ろ死を救〳〵二葉の飛を持ろ賠恚の恨こそいや色

をうげこる事ゐ悪清うこぐび〳〵ゐて。ば
ゐれ〳〵べ〳〵ゐこゐの〳〵ゐ和七竟ろ礼を話ぐこ和春ゐ。
ゐれを妙よそのまれて人の命をれたまで。飛清いぐりよう
わん。これを初変ふうて。世を捨てうお着ゐ布の
りんこゐりゐゐ。和よ奥ゐ母の石ゐり。妙ごころ
ざ〳〵ゐ〳〵ぐ〳〵。その西方ゐ武覚を身れゐかこまり
邪して消うせめ。和尚堂つかれりま利整深衣の男こり。
一こも津のお出ゐ和の庁里よゐぐ〳〵ゐ卿の堂を脱し
祝宛法師なりしこうや。ろ肥お路系一接ゐ時。逢碌の
新。ゐろ俗へゐ葬ようりうる武士。参をれろうがくき
ゐ。そのよ孫おはぐこうて。今一端年ゐ職こゐ旅をがぐ
けるこ字ゐへゐれぐうゐ女のごくゐべ。せよ逢哭と



国立国会図書館　タイトル『一夜船 5巻』 請求記号 寄別5-3-4-3
ガラス使用

いふものこゝろまりてある物ぞや。答て曰く、物ぞと変ずるのそもあり。変じ
へざる者と変ずるのそもあり。変じへざる者は、いはゆる書よく述たれば、書に異ならず。今此不審をつゝそ
平生医療の人、気なくろへ那ばうへ死ぬるを、世の人、火のものづゝそゝそ
て死もるへ、その庶もわるうなる
気のものゝそうぞ。もそとしてそ
ゐるのみ。変死の人を招死
ものの気も、まだ尽ず。怨しく招
もるゝもり。いまゞの物の火をみをうけて消ゆる時、わるう
なる気もでゝおるぐゞ。招そのの
てその跡ゝ見ゐも浅深厚薄ゝ
生ぢる物ゝの気もり。ひ気のゝでこゝる時、那を牛ど

そゝへで燈の形あるごゝを多にも
よゝそもる事物といへどもぼりて
ゝゝぐゞ。毛筆い簡ゝそでゞ
那を物。ゐを生ぢ。黒白黄赤の
づけて歯灵といふ。毛髪ゝいふ名
の気凝て名処よ那をあつめ。
勢の通よ流ゝゝいふ化説ゝ又宜なり

(三) 厚朴のる流ゝ

ひゝ如果湯ゝよ味厚朴仁薬ゝ名ゝ著。二薬ゝ名ゝ
れて毒和漢の義おゝよかゝひけゝ。ある東ゝ
ばまぶゝ文ゝもゝくゝり。門戸をあ
閉もりおぢゝゝさぬめるて。仁薬人ぐゝゝ

まゐて取りく生りて。我内さ月歩あでうそぐり
抱きごそよ婦りの辻して肯たくさ坊そうしろもちおの
かりし少し息をそうて迫そしなでまこ退うの事しが広門に
よて見うしあのそれ少よかれ仕合といひそれが空人宿れど
ろさそれそれそ見こう入なそ吉を抱るうりぴ一むう
もりそ湯そとそ野衆墓衆四辻橋のかなりうりもりうそど
おろしいひのかのせり。毛おろうあ人よ脳病風吹そいて
そこぐ歩もり衆乃月竜よ事ど事の事
法師ありぞの子細ひとのまの
えそどうしろりみこそいたれひりり月衆うぐりて関よ
おろそれど鴨さ百よ肯ろ
狐狸のたぐいあるべ。さて入月げおようりてたゆう



よ男とこそる女房ごそしいそぎろいはりうすりげぐう
しおれで坊そのぐく新のうろ前く。仁事和むびえそうれ汚
法そおろうそれ。ふも味噌和漬菓
ひりり。ある衆ひ仁事男漬菓
く扉をそうく。仁事和の事ぞ
乃仁助ひ月具よなりてよやく百町の辻りえこ入れ
逃うけし放これまでい辻そうもり。たとけ話なしと涙を流
そ。仁事和そうそい衆とひ法脳病うあろたなう
事をそて近百乃扉ひ月ぐ
和と飛のなの月の事法師ぬ
やくうしろう常をうえて兵今りどのてまつるこよ。
肉りまをえて月いるれをそうそをそまがありと

りあくまでもそのせめおうりょうにどこまでも気をはりてゐるこゝろが絶へもつることをいづまで今宵ばかりやうしんをもつてゐるものぞとおもひてそのへんをはやくいかいう梶戸がせどくちをたゝきてもおもはぬ女房を裏うちなのみならず。

よあくるまでもつゞきてそう称くに仕事がおほくてそう称くにおもひのほかつかれをいだしてねむりをさまし西蔵の八蔵つ東蔵の七蔵の事ぞとおもひの梶うちをしづまりかへりてその事をこゝろにかけてゐるうちに一ばんどりのこゑをいまかくらめうしろめたくおもふ事嵐一さおもひそう称くに仕事がおほくてそう称くにおもひのほかつかれをいだしてねむりをさまし西蔵の八蔵つ東蔵の七蔵の事ぞとおもひの梶うちをしづまりかへりてその事をこゝろにかけてゐるうちに一ばんどりのこゑをいまかくらめうしろめたくおもふ事嵐一

梶よばゝてこゝろめをぬしろうりとれどそこ物とをすがに仕事がおほくてそう称くに仕事がおほくてそう称くにおもひのほかつかれをいだしてねむりをさまし西蔵の八蔵つ東蔵の七蔵の事ぞとおもひの梶うちをしづまりかへりてその事をこゝろにかけてゐるうちに一ばんどりのこゑをいまかくらめうしろめたくおもふ事嵐一

㊃人もれどこゝろ安乃村

ひとつ河内の出嶋ゆきよしといふ男下げ嶋のおうう閨前よりの内妻つ八世呂しうとを碧毫つこあしうが兄前わ一対ハ一ありどと歌もれど森笠つ事ハ貞実ある者なりしがひさびさ南一対よせもつ事大寺ゆき会ハ人物用かれど名弘の男白おそれこゝに南気久ゝ笠つまお逸ゆゝ作弟ハ時そも兄が歌ありぞ。納ゐるべしと雨ぞれこゝろの出嶋ゆきよしといふ男下げ嶋のおうう閨前よりの内妻つ八世呂しうとを碧毫つこあしうが兄前わ一対ハ一ありどと歌もれど森笠つ事ハ貞実ある者なりしがひさびさ南一対よせもつ事大寺ゆき会ハ人物用かれど名弘の男白おそれこゝに南気久ゝ笠つまお逸ゆゝ作弟ハ時そも兄が歌ありぞ。納ゐるべしと雨ぞれこゝろの出嶋ゆきよしといふ男下げ嶋のおうう閨前よりの内妻つ八世呂しうとを碧毫つこあしうが兄前わ一対ハ一ありどと歌もれど森笠つ事ハ貞実ある者なりしがひさびさ南一対よせもつ事大寺ゆき会ハ人物用かれど名弘の男白おそれこゝに南気久ゝ笠つまお逸ゆゝ作弟ハ時そも兄が歌ありぞ。納ゐるべしと雨ぞれこゝろの

国立国会図書館　タイトル『一夜船 5巻』 請求記号 寄別5-3-4-3
ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『一夜船 5巻』　請求記号 寄別5-3-4-3

ガラス使用

森之助八同家中未曾知家ノ姫ニして二三年まへより
縁ありてかくて仕合
縁ありしとび死後より男子誕生せ
親ゝ未役ノ春ゟ村ノ神ゝ相役ノ勤
役ゟ組を離れ家中内談
嫁ゟ法ノゝと後家を姫ゟ
ゟけのハそれ勿論ノ仕ゟ
ゟ卯ゟ嫁ゟして祐ゟ河
ゟ倒ゟゟて
ゟつ忘れ
夫ゟ機嫌
ゟ出ゟ
ゟ
なけれ
若役ゟ
ゟを
ゟ
目ゟゟく姫十三ゟ
ぞゟ森ゟゟ歌
ゟ
ゟ
ゟ

れ。恋とてもかゝる名ハ沖さゝたちふそう人名をとゝめ
そめうぜんりの清濁乃ほどさへらくなりしに三光
院角うの院よハひろ外よわろしく初しものをさい女房と三
院角よやぢくせ一時空有もと今かそやむしにになりぬる
よとハ女房とれ中めるよ艶しくさ歌抱ぐそう。いろ女し
ぎりい合とれば。森堂つぐ書ハ京より呼ひく三条角の家へつく
たるを思て中及びしに中ぐいさうそう。ゆくしに引人初どそ
ふ乃中そそたりひそあ一勢。そやそ思とろくいふそのたらさ
れよとなげさうるはま。感情くぐそう。たりろさ乃ふ
浮刺よかしてきやうふ。ころくみ。ひさとろ。月八まぐまりて
て右よ乃りぬれ初ぬ一緒の要れ初ぐそ。よ。月八まぐまりて
乃宝よおり。鞍高れ雅まねくらん。角の名づも月にろそ。

雪れ哥だれ一の艶なるをおりしい出て。かゝる女をこそ我名
の妻とかがめゝば。浮世の甲斐とも又ハ恋ぶまの種とも。ゆ
ふ寝の床さびしく。ねられぬまゝ。ひとり
ぬ一月ぶそいやゆ一おなりひれ初ぬ。
急を初しもう。西念たこう森堂つを
引入んとひさそこにおりいたらぐそ
ぬうちにぐる我れ時宜をうかゞい。大ぶんの並れよ月を過
し。もう角を損わひもり初つそ
そやくめさ合せてきのぐさをけづる
れば。無念とぐりよ例れめるをそせ。その
場いを退しべ今にる者初一。そ
我方へひろひもう。今よ姫までもり付め。初よ

ひ年月白髪つが情り、又八日法華
歌のもれざる事、へぐり千会よ
しん旭夕の無病ゆへ、五三の僕事を教し、うもうが多げこ
をそこに見て、父しこと身をおつ
等の恐い悔しこと事、おつ
ひ交代まうて、る北ひよりやう、岩坊丸月日おつどおた
さあて扨、大師のれ廟へまの人をこうこ
うふ大蛇吉を導ドてまちうけ
ゆこて、おぐしをうこたをれて、
うけあのまり、咒を唱へ、そこぐ
べへうあ大罪あるくいまうくれ
すあにあい、和ーくロれーく有か
やりけまよ、これ物ぐうをせーう
よ月悔のそれうまくらうて、廟
せーが因果いくや、来来をまこ
ド、なぐくへて和をみくち、今なのり
者今の用於ちく、我前をくおて、
娘をうちこで父森こ重をうこひべうこ
討れでこまうよれうこそやく前をこれ、自つ方へ人を
にうかーうこいう而へ月日のれ
兄が歌れうせの出来れぐうこ
ひうへなぐれうこづよあぐうり
まうとおくちもれりぐやく
よ、称ぐくい森こ重ぐまかうり、

(五)人を物喪三の事

統お三教の元。お本座親玉。代〻筒井の商人なり。生
如律令よ。うりもとうりもとうりもとうりもと
ぐて寺の西座敷玉と世の人よ呼ま
本お梅わり。元乃江戸育まで
ぶりをと初陽毎朝の雪と信じて、浴世のあそびたる事を
ちうど。ひ一本をそのーみよ実の吉梅も食ざりけり。
ある時門にはきさ恵法源の本像ゆくけるを指ひの雪。
おいてさされ梅の神と敬うく信心ー。遠浜清滝を信じ
けり面へ日向乃宮猿渡那河国岩永者事。た
ぐひよ今のれ旅扱事もあり。さそけそびうみよかり。今の
事よあうり。秋でありてこと今りけ。今おせよ物をそく



国立国会図書館　タイトル『一夜船 5巻』 請求記号 寄別5-3-4-3
ガラス使用

きべうて仰うる事ゆゑ此頃庵をかくれ次でうく。主客一とつて互ひ。琵琶つ
ゐる折ふし神の入給ふもうるはしく入給ふれ今元政べーとへいを
取入給ふれ会釈をうるれど。半夜の教をも乃ち慕ひなるうかく。我余福迎
うるを出乃右左清ほで。会釈のはうそうをかうそれが琵琶つ夜ふして。大
元尊神計事かれど。琵琶つ退屈の折を見て。今二百かれば
高聴よりうるのをまさきさいきりひよはくのとひさそこ
ぎせうに。有うけの会釈を撰れ出て文高一たるあよ
て文べうのうびとの像をひそうれ小琵琶つ門にて捨玉。元
よ気を訪うるせて。祝合よくたくみうる心こうかされ神ゆく

なつく今うそくうしゐ。会釈こぐ
元の極ち方祈よつまて指果うに
うる面業うち義うち人最乃
祝ゆ。そて比秘美せ梅の指う
比梅れ義生を祈うへ宰府の天神よ美落して。ー
ん一丹機をぬうんで。初うて神
内うち面れ救よ咲うりり。堂
うせ。心乃うをみひうにゆ
名若くへりめうれ高をれ
うけうよりくち天神の色まれ
梅のうてび義生。指うる末に
の表現ん。指ひゆうくの

国立国会図書館　タイトル『一夜船 5巻』 請求記号 寄別5-3-4-3
ガラス使用

ごとく餘(よ)もち。春(はる)半(なか)月(ばかり)よ入(いり)まり。富(とみ)士(じ)の麓(ふもと)より路(みち)
涌(わき)てむら〳〵榮(さか)よろこぶ。何(なに)代(よ)ら春(はる)秋(あき)を過(すぐ)さん。
一切(いつさい)の神(かみ)なりけを祈(いの)りひ
ひ祝(いわ)ひなから無(む)事(じ)あり
し。殊(こと)更(さら)つゞく弘(ひろ)神(かみ)の
てもも必(かなら)ず御(ご)利(り)生(しやう)さうらふ例(ため)

一夜船巻之二 終

国立国会図書館　タイトル『一夜船 5巻』 請求記号 寄別5-3-4-3
ガラス使用

乙5
369

国立国会図書館　　タイトル『一夜船 5巻』 請求記号 寄別5-3-4-3

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『一夜船 5巻』　請求記号 寄別5-3-4-3

ガラス使用